「外国語学習のめやす」コミュニケーション能力指標のための中国語文型リストおよびそのフォーマットと作成手順の体系化

山崎直樹[A]，植村麻紀子[B]，鈴木慶夏[C]，中西千香[D]，西香織[E]

アブストラクト：本研究は，1)コミュニカティブな到達目標を中国語の構造に関する知識と結びつけるための文型リストの具体例，2)その文型リストのために考案した共通フォーマット，3)能力指標から文型を導き出すために考案した手順，の 3 点を世に問う。この文型リストが教師の資源として共有されれば，「めやす」に基づいたインストラクションが言語構造に関する知識においても体系性と透明性を持つことができるはずである。

キーワード:「外国語教育のめやす」，コミュニケーション能力指標，文型リスト，コミュニケーションの 3 モード

1　何を作ろうとしているのか

国際文化フォーラム(2013)には，いわゆる Can-do 能力記述文の形式で「コミュニケーション能力指標」が示されている(pp.39-53)。

これらの指標を達成することを目標にインストラクションを設計する場合，言語構造に関するどのような知識（文型，語彙）を学習項目として取り上げればよいのか。また，それをどうやって決めるのがよいのか。本研究は，この問題に対する解答として，「能力指標」から出発した文型リストの具体例と，そのためのフォーマットと，作業手順を提案する。

2　なぜそれを作らねばならないのか

「めやす」が目指す外国語教育を実現しようとしたとき，教師が直面することになると思われる障害を簡単に整理しておきたい。我々の文型リストは，これらの諸問題を解決するための方途を提案するものである。

A: 関西大学外国語学部
B: 神田外語大学外国語学部
C: 釧路公立大学経済学部
D: 愛知県立大学外国語学部
E: 北九州市立大学外国語学部

a)ふつうの教師は「めやす」の指標のような Can-do 能力記述文から，すぐには授業を設計できない。b)タスクが提示されていても，そこから必要な言語表現を選定し，それをどう学習者に提示するかを考えるのは時間がかかる。c)Can-do 能力記述文と授業設計をつなぐためのタスクを，ある教師が考案しても，それが共有されにくい。また，共有されても，他の教師が言語表現に関して具体的に何をやっているかは，完全には推測できない。

3　どのような手順で作ろうとしているか

3.1　タスクに分解する

まず，コミュニケーション能力指標を，コミュニカティブなタスクに還元する。

例えば，「自分の好きな食べ物，嫌いな食べ物，食べられないものなど，料理名や食品名を，口頭で伝えることができる（話題領域：食，レベル 1)」という指標に示される能力に対しては，i)好きな／嫌いな食べ物・飲み物を伝える，ii)ふだんの生活で食べないものを伝える，iii)何らかの理由で食べられないものを伝える，というタスクを設定する（＝これらのタスクを遂行できることが，この能力が身についているエビデ

ンスであると見なす)。

3.2　言語表現の抽出

設定されたタスクに使われる言語表現(文型)を抽出し，それがコミュニケーションの 3 モードのどこに当てはまるかを考える（3 モードについては国際文化フォーラム(2013)を参照)。

次のタスク A，B を比べると，単なる申し出と質問に対する答えとでは使用する言語表現が異なっているのがわかる。モードの区別が必要な所以である。

タスク A:何かの症状を呈している人に対し，薬を持っていると伝える→**文型**:“我有药。”(「伝える」モード)

タスク B : 症状を言って薬を持っていないか尋ねる／答える→**文型** : “我感冒了，有没有药? ー有。 / 对不起，没有。”（「やりとり」モード)

3.3　定項と変項の決定

言語表現のどの部分を定項にし，どの部分を変項にするかを，出発点となった指標のレベルと併せて考える。

例えば，“我在大学学汉语。”の下線部を入れ替えて使う必要があれば,そこを変項にして“我在〈学ぶ場所〉学〈学ぶ対象〉”という文型を設定できる。後者は固定しておけばよいと考えるならそこは定項にする。言うまでもなく，変項が多くなるほど，文型の特徴づけ（＝どのような表現意図をもつか，どのような場面で，どのような目的で使われるか，などの描写）は抽象的になり，現実的な状況との関連付けが複雑になる。また，変項が多いほど置換練習などによる訓練の負担が増える。つまり言語表現としては難度が高くなる。なお，いわゆる「定形表現」は「変項が 0 の文型」として定義できる。

3.4　語彙リストの作成

設定された個々の文型の特定の〈変項〉のそれぞれにつき，そこに代入すべき語彙のグループを設定する。それが語彙リストである。つまり，語彙リストは常に「特定の指標の特定のタスクの特定の文型の特定の変項」と関連付けられる。

4　共有リソースとしての文型リスト

本研究で提案するような文型リストは以下の可能性をもつと考えられる。

i)同じクラスを担当する教師間で連携をとるための，複数の教師が教材を共同で開発するための，そして異校種間（中学・高校・大学）での連携をとるための共有リソースとなりうる。
ii)指標とそれを実現するためのタスクは，言語を超えて共有するリソースとなりうる。

5　この文型リストの新しいところ

本研究の提案する文型リストの新しい点は，次のようにまとめられる。

1)Can-do 能力記述文を具体的なタスクにまでブレイクダウンしている。2)コミュニカティブなタスクから出発しているので，語用論的・社会言語学的な能力の育成も視野にいれることができる（例 : 目上の相手に姓名を尋ねる，同年輩・目下の相手に姓名を尋ねる)。3)必要なタスクは恣意的に設定されたものではなく,「めやす」のコミュニケーション能力指標というスタンダーズに基いている。4)コミュニケーションの 3 モードに分けて文型を提示している。これにより会話のやりとりでないと出てこないような特殊な形の応答も学習できる。また，方略的な応答のパターンも学習できる。5)定項と変項，および語彙リストの関係を明示することにより，言語構造の学習の難易度をコントロールする手段を提供する。

引用・参考文献

国際文化フォーラム. (2013)『外国語学習のめやす: 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』. 東京: ココ出版.